

第78回秦野たばこ祭俳句大会 第一部

兼題「火」 雑詠

順位	点数	特選	句番	作品	作者	住所
第一位	33	1	45	千枚田飛び火のやふに曼殊沙華	沼宮内薫	横浜市
第二位	31	3	13	篝火のはぜて一笛薪能	柳川青峰	相模原市
第三位	29	2	81	春炬燵種火のやうに祖母がゐる	北村純一	厚木市
第四位	28	5	509	船の名で呼ばるる叔父や夏座敷	清水吞舟	茅ヶ崎市
第五位	27	3	2	夕映や発火しそうな烏瓜	長谷川昭放	中井町
第六位	25	5	44	神殿へ火照る御輿を納めけり	中村昌男	大井町
第七位	22	4	54	母の為母せしやうに門火焚く	西岡青波	茅ヶ崎市
第八位	22	1	565	地上より音の消えゆく日の盛り	菅沼とき子	相模原市
同第八位	22	1	571	秋蝶のはぐれて風になったまま	北村文江	大井町
第十位	20	4	640	万物の細胞歪む酷暑かな	須田聡子	小田原市
第十一位	19	2	31	蚊遣火や座椅子正しく客をまつ	岸本純子	茅ヶ崎市
第十二位	19	0	87	父の風母の風来て門火焚く	大澤秀子	海老名市
第十三位	17	1	573	ふかし芋割れば昭和の匂ひかな	佐藤和子	秦野市
第十四位	17	0	641	爽やかや物を減らしていく余生	外山遊児	海老名市
同第十四位	17	0	53	七輪の火を高ぶらす秋刀魚かな	大山道子	厚木市
第十六位	16	2	36	父の日を失ひたるや戦火の児	武勝美	秦野市
第十七位	15	3	618	老犬の海を見てゐる晩夏かな	佐野良彦	横浜市
第十八位	14	3	93	埋火をあやすが如く母親く	田井京子	秦野市
第十九位	14	2	623	熟考の末の一步や羽拔鶏	荒理依子	川崎市
第二十位	13	1	615	外交はかくの如きか蜘蛛の糸	桜庭義昭	秦野市

天薔賞

故高橋天薔は秦野市俳句協会会長を務めた郷土の俳人で、平成二十三年三月亡くなりました。俳風は俳味のある俳句に開眼され、「顔」に所属し「顔結社賞」を2年連続で受賞。その作風を偲んで顕彰することにしています。

天薔賞	句 番 56	火のいらぬ煮炊きの世とや文化の日	岡本保	厚木市
-----	-----------	------------------	-----	-----

以下の句は一人でも多くの人に賞をという配慮から、同一作者の句を一句のみとしたため、入賞とはなりませんでしたが、入賞と同等のものとして、ここにその句を記します。

14	15	15	15	15	15	18	17	19	19	20	20	21	24	25	点数
0	0	0	0	1	2	1	3	1	4	0	3	1	8	1	特選
552	576	88	574	600	521	589	559	510	564	11	504	23	25	506	句番
沢庵石きのふよりけふ座りよき	姿なきものが漕ぎゆく花筏	艶やかに火の帯を解く恋螢	植木屋の話上手や小鳥来る	啓蟄や足のとどこかぬ三輪車	被爆樹の冬芽挙りて天を指す	有難うぶつきら棒にカーネーション	秋立ちて空に無限の生れけり	先頭もしんがりもなき鰯雲	絵手紙の全快の二字桃の花	戦火にて知る都市の名や鳥帰る	生涯を木綿の暮らし麦の秋	掛けられし水に火の付く祭衆	迎火や白寿の母の薄化粧	海鳴りの底より冬の立ち上がる	作品
岸本純子	西岡青波	中村昌男	大澤秀子	大山道子	清水吞舟	沼宮内薫	菅沼とき子	北村文江	西岡青波	沼宮内薫	清水吞舟	清水吞舟	清水吞舟	清水吞舟	作者
茅ヶ崎市	茅ヶ崎市	大井町	海老名市	厚木市	茅ヶ崎市	横浜市	相模原市	大井町	茅ヶ崎市	横浜市	茅ヶ崎市	茅ヶ崎市	茅ヶ崎市	茅ヶ崎市	住所